

令和6年度上期 議会と語ろう会（議会報告会）における 意見および提言等に対する回答

○防災について

- ①防災無線の音声は、山や谷に反響して、タイムラグがあり聞こえづらい。屋内でも聞こえるようにできないか。
- ②各家庭に配られる避難に関する広報を家庭内に張っておけるように、A3版くらいのサイズにしてほしい。
- ③豪雨災害に備えて、早期にため池改修をしてもらいたい。

回答：総務課

- ① 防災行政無線は、毎年保守点検を行い、不具合があればその都度対応し、防災情報の適切な発信に支障が生じないように努めております。しかし、防災行政無線を通じた放送は、屋外に向けた放送であることや屋外スピーカーと住居の位置関係に加え、近年の住居の遮音性の向上等の理由により、屋内において放送内容が聞こえづらい場合があります。

放送内容が聞こえづらい場合は、防災行政無線テレフォンガイドに電話していただくことで放送内容を確認することができますので、ご活用くださいますようお願いいたします。

- ② 令和5年度に作成した津幡町洪水ハザードマップは、A1サイズで町内の全世帯に配布しており、浸水想定区域のほか避難行動や避難の心得等、防災情報を掲載しております。

洪水ハザードマップは、A3サイズになると浸水想定区域の視認性が低くなるためサイズ変更は考えておりませんが、町ホームページに掲載しておりますハザードマップのデータをご自身でA3サイズに印刷し、家庭内で掲示することは可能かと存じますので、お手数をおかけしますがご理解いただきますようお願いいたします。

回答：産業振興課

- ③ ため池の改修につきましては、地元管理者からの相談を受け、その改修内容に応じて、事業化を進めるなど対応しております。

豪雨が予想される際は、事前にため池の水位を下げることや、日常から点検をしていただくなどの対策を行っていただくと共に、使っていないため池については、ため池の堤体を開削することにより貯水させない状態にするなどの対策も重要になりますので、町までご相談いただきたい。

○定住促進・子育て支援について

地域の住む者の雇用創出するため、倶利伽羅塾を中心に町が働く場を提供できないか。そのための周辺道路整備と新駅設置。

回答：産業振興課・都市建設課

地域に住む者の雇用を創出するため、倶利伽羅塾を中心に町が働く場を提供できないかについて、倶利伽羅塾に近接する大坪に工業団地を造成し、新たに東荒屋でも計画を進めています。これに伴い、企業誘致を通じて地域の雇用創出に努めてまいります。

そのための周辺道路整備と新駅設置については、平成 30 年に設立された津幡駅・倶利伽羅駅間新駅設置促進期成同盟会において、倶利伽羅塾周辺を含む津幡東部地区の公共交通の利便性向上や観光交流機能の強化、企業誘致の推進などまちづくりに寄与するため、情報収集や調査研究、先進地への視察、関係機関への要望活動を行っています。

また、令和 3 年 3 月に改訂された都市計画マスタープランでは、倶利伽羅塾周辺を新駅周辺開発拠点として位置づけ、新駅整備とともに、体験型観光交流公園の整備、道の駅倶利伽羅源平の郷や津幡運動公園との連携、各種イベントの実施、安全で安心して暮らせる住環境の整備を進めることとしています。

新駅設置は、鉄道利用者の増加が見込まれる新しいまちづくりと併せて整備する必要があるため、倶利伽羅塾周辺の道路整備も必然であると考えています。今後も、周辺道路整備と新駅設置について IR いしかわ鉄道株式会社などの関係機関と協議を進め、駅周辺整備に伴う新駅整備や有利な手法・財源の検討を行いながら、事業化に向け進めてまいります。

○高齢化対策について

のるーと津幡の利用について、電話予約も難しい人のために地域に世話をしてくれる人がいると助かる。また、刈安地区を含め運行エリアの拡大を望む。

回答：生活環境課

地域に世話をしてくれる人を配置することについては、各地区に行政で対応するのは困難なため、近隣者、近親者にご支援いただくなどを検討していただくと幸いです。なお、利用方法などの説明会は、1 回に限らず、必要に応じて開催することも可能ですので、生活環境課にご相談ください。

刈安方面への運行区域拡大については、利用状況等を考慮しながら、検討してまいります。

○地域の賑わい創出について

浅田交差点の渋滞緩和、IRいしかわ新駅の設置、倶利伽羅塾前から運動公園まで高架橋の建設、損傷した道路の補修など交通インフラを整備する。

回答：都市建設課

浅田交差点の渋滞緩和について

倶利伽羅地区振興会からの要望を受け、町は毎年、石川県に対して渋滞解消対策の実施を要望しています。これまでの対応策として、信号機の周期の更新や県道森本津幡線の区画線の引き直しを実施していただいております。また、迂回路の利用を促すための看板設置やチラシの配布、交通量の分散を図るための時差出勤の呼びかけ、出退社時間を考慮した町営バスのダイヤ改正などさまざまな対策を講じています。

今後もソフト、ハード両面での対策を検討し、実施してまいります。

新駅の設置について

津幡駅・倶利伽羅駅間新駅設置促進期成同盟会では、情報収集や調査研究、先進地への視察、関係機関への要望活動を行っています。新駅設置には、鉄道利用者の増加が見込まれる新たなまちづくりと併せて整備する必要があるため、IRいしかわ鉄道株式会社などの関係機関との協議を進め、駅周辺整備に伴う新駅整備や有利な手法・財源の検討を行いながら、事業化に向け取り組んでまいります。

倶利伽羅塾前から運動公園までの高架橋の建設について

高架橋の建設は、県道や鉄道を跨ぐ必要があり、その延長が長いと、多大な費用がかかることが予想されます。そのため、新駅設置に伴う周辺地域のまちづくり整備計画において、平面交差や跨線橋の建設など、さまざまな選択肢を検討してまいりたいと考えております。

損傷した道路の補修など交通インフラの整備について

元日の地震により、町が管理する町道で約1,000箇所の陥没などの損傷が発生しています。また、老朽化による損傷も含め、パトロールで発見したものや連絡を受けた案件について現地確認を行い、優先順位を付けて緊急性の高いものから順次対応してまいります。

○その他

都市計画道路を整備する際は、両側に歩道を設置してもらいたい。

回答：都市建設課

町では、未整備区間の都市計画道路を整備する際には、原則として両側に歩道を整備する方針で、設計及び事業を進めています。

津幡都市計画区域には国道および県道を含む約32km、16路線の都市計画道路が存在し、整備率は77%を超えています。

整備済みの11路線のうち、高架橋で歩行者の通行が禁止されている津幡バイパスなど一部を除き、両側に歩道を設けており、残る5路線の未整備区間についても両側に歩道の整備を計画されています。